

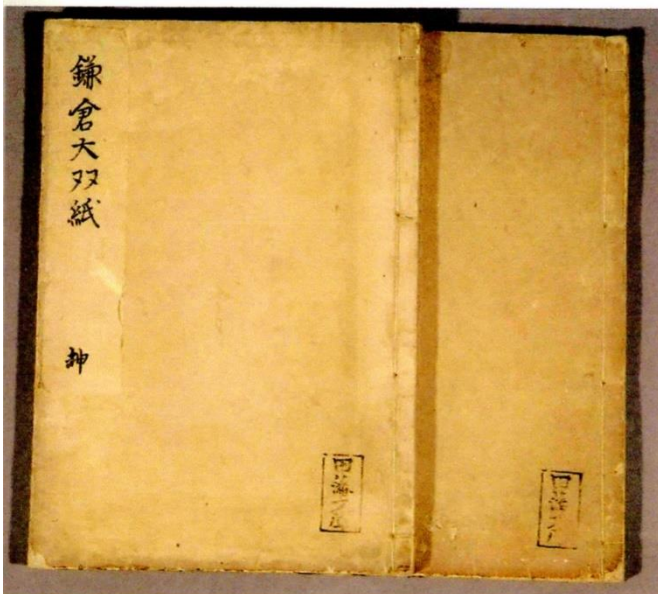
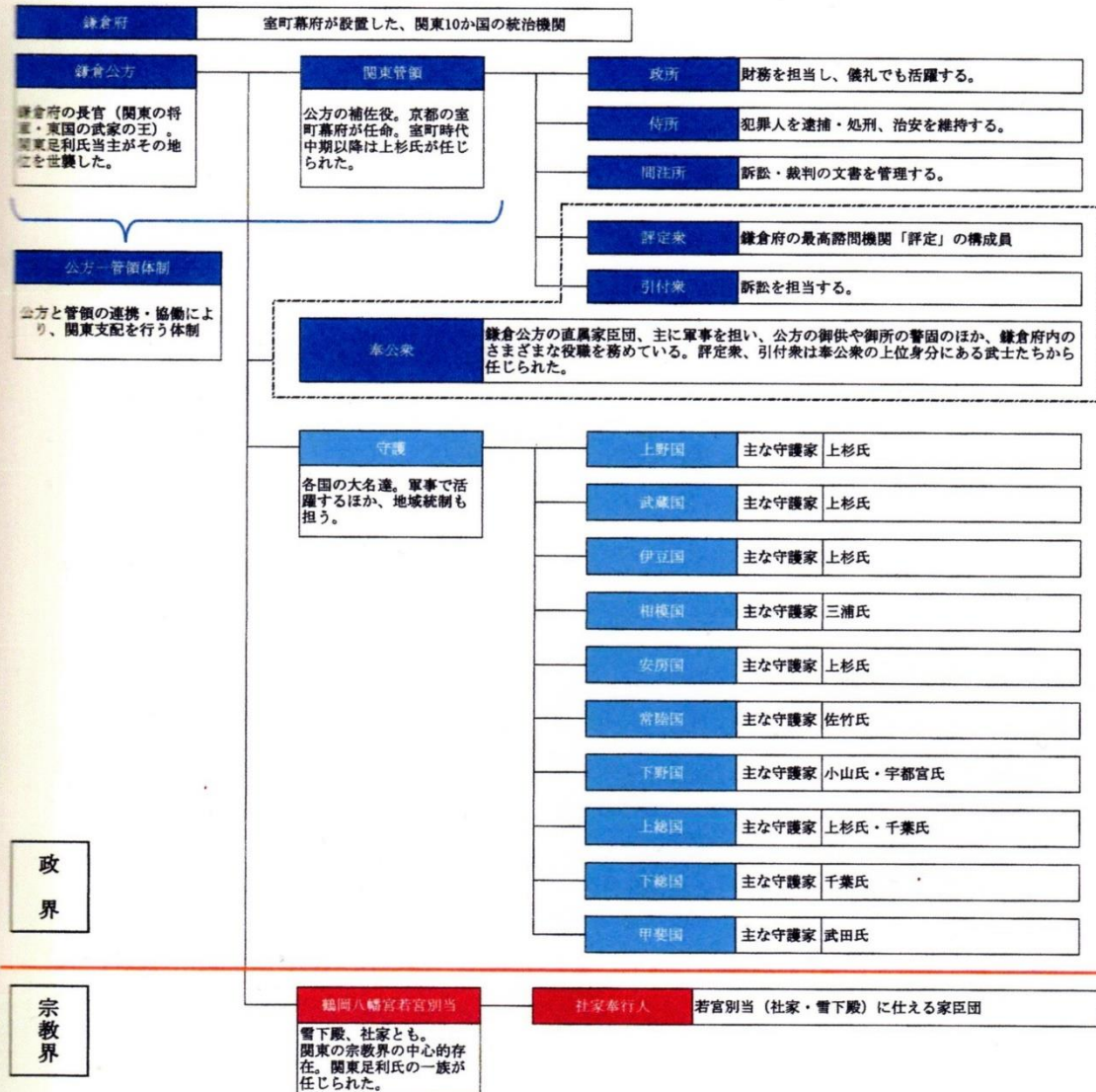






1-3 パネル「鎌倉府組織図」

鎌倉府組織図



1-4 『鎌倉大双紙』

江戸時代 当館蔵

『鎌倉大草紙』とも。資料は、全3巻からなる軍記物で成立年代は未詳。内容は康暦元年（1379）～文明11年（1479）の100年にわたる鎌倉・古河公方や関東管領、諸大名の動向を描いたものである。史実と異なる記述もあるが、同時代の関東の状況を記した資料が乏しいことから貴重である。著者も不明だが、旧千葉氏宗家の血を引く「武蔵千葉氏」を擁護する記載が見られることなどから、千葉氏関係者であるとの説がある。資料は、御三卿のひとつ田安徳川家に伝来したものである。





1-10 千葉胤直 (『英雄百人一首』)

江戸時代 当館蔵

享徳3年(1455)12月、鎌倉公方足利成氏の関東管領上杉憲忠殺害によりはじまった享徳の乱は、関東の諸大名にも波及、各地で公方派と管領派の対立が発生した。千葉氏も当主千葉胤直は管領に味方したが、重臣の原胤房は公方側について対立した。一族の馬加康胤の加勢を得た胤房によって胤直は多古(現在の多古町)で滅ぼされた。その結果、千葉氏の宗家が庶流の康胤に移り(馬加千葉氏)、本拠も後に千葉から本佐倉(現在の酒々井町・佐倉市)に移ることとなった。

資料は有名な武人・武士100人を並び、和歌に肖像画、上部に伝記を記した絵本。自害しようとする胤直の姿と辞世の歌を載せている。



1-11 パネル「茨城県指定文化財 古河公方足利成氏館跡 古河城跡」

画像提供 古河市観光協会

鎌倉公方足利成氏は、管領上杉氏と幕府軍の攻勢の前に鎌倉を放棄し、康正元年(1455)に古河(現在の茨城県古河市)に公方の館(御所)を移し、これ以降、成氏は古河公方と称された。成氏が古河に移った理由は、古河や周辺の下河辺荘(現在の茨城県古河市、埼玉県加須市など)、太田荘(現在の埼玉県羽生市、加須市など)が公方の所領(公方御料所)であったこと、小山氏や小田氏などの有力な支持者が近隣にいたこと、古河が水陸交通の要衝であったことなどが挙げられる。

成氏は後に渡良瀬川沿いの古河城に移るが、古河城の別館のあった当地は、寛永4年(1627)に廃されるまで「鴻巣御所」ともよばれていた。資料は、御所沼に突き出た土地に残る古河公方館の跡地を写したもの。現在も、石碑の西側には堀跡・土塁が明瞭に残っている。